

# ふつききょう

〒540-0025

大阪市中央区徳井町1-4-9

TEL 06-6944-3592

FAX 06-4791-4895

http://www.max.hi-ho.ne.jp/

hukikyo/

創刊号

発行 (財) 精神障害者社会復帰促進協会

知ってますよ、こんなところですよ  
「ふつききょう」って

「ふつききょう」？何のこと？と首を傾げる人が多い。漢字で書いてみると「復帰協」益々実態が分からなくなる。ためにインターネットで復帰とか復帰協とかで検索をかけてみると、主力は沖繩に関連する団体や紹介記事だ。そんな復帰協の全貌をどれだけ分かっていただけるか、じっくり読んでいただきたいと思えます。

一般に復帰と言われても何処が。やや断定的に言わせているのか。社会福祉に多少と。ただいたのは、この小紙が多くも関係している方々なら比較的。一般の方々の目に留まること日常的に耳にする言葉なのです。を期待してのことなのです。

## 創刊にあたって



(財) 精神障害者  
社会復帰促進協会  
理事長 梶川栄一

このたび、当協会の機関紙「ふつききょう」が発行される運びとなり、誠に嬉しく存じます。

当協会は、精神障害者が地域で自立した生活が営めるようサポートするために、厚生省、大阪府の認可を受け、昭和五十一年に設立されました。

当初は精神障害者に対する福祉事業を行なう団体として、共同(小規模)作業

所への運営援助を中心に活動してきました。

その後、平成元年になって大阪府、大阪市の精神障害者共同(小規模)作業所に対する運営費助成制度が確立され、さらに平成五年に「障害者基本法」制定、平成七年には、「精神保健法」が「精神保健ならびに精神障害者福祉に関する法律」に改正されるなか、当協会でも理事会の組織を充実してまいりました。

平成十二年には、大阪府、大阪市からの委託事業が増えるだけでなく、当協会が実施してきた事務代行事業も増加し、ニーズの多様化とともに、一段と広く事業活動を展開しています。

このような中であって、大阪府下で初

前置きが長くなりましたが創刊号の本号の大きな目的の一つが、なぞの「ふつききょう」の概略を説明し、少しでも解き明かしが出来ればと思う次第なのです。

井町にやって来ました。通所授産、生活訓練(援護寮)、地域生活支援センターの三つの顔を持つ複合施設「ふれあいの里」は西成区南津守に今春オープンしました。

本名は「財団法人精神障害者社会復帰促進協会」。年齢は二十五歳。今まで世の中にはあまり目立たない存在でした。しかしこれからは心を入れ替えて、もっと目立っていかうと関係者一同が思い始めています。

一番の古株は共同作業所「ひこうせん」。「あおば憩いの家」が発展して現在の中央区徳

また委託事業では大阪府の就業支援、退院促進、ピア・ヘルパー養成の三事業、大阪府、市から作業所指導員養成、大阪市の委託で長居と舞洲の障害者スポーツセンターに職員を派遣。

そして最後に共同(小規模)作業所の社会保険事務代行。これらのコントロールタワーが徳井町の本部事務局であります。

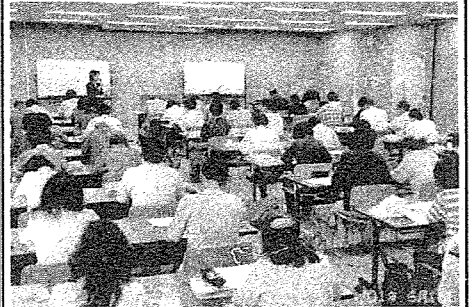
めての生活訓練施設・通所授産施設・地域生活支援センターの3種の複合施設「ふれあいの里」(大阪市補助事業)が誕生し、その運営にあたってあります。

特に近年障害者に対する就労支援事業・退院促進事業及びピア・ヘルパー養成事業等も大阪府委託事業として取り組んでおります。さらに来年度から生活援助(グループホーム)、居宅介護等(ホームヘルプ)、短期入所(ショートステイ)の各事業が都道府県・指定都市から市町村に移管されます。

このような時に、この機関紙が情報提供の場として、また社会啓発と同時に当事者の社会復帰(参加)促進の一環として役立つよう念願しております。

# 委託3事業報告

## 〔I〕ピア・ヘルパー 養成研修事業



『ピア』という言葉をお聞きになったことがありませんか？ 『ピア』とは、「仲間性・対等性」と訳され、障害当事者同士の支援のあり方とし

て今注目されています。大阪府は平成十四年度より始まる精神障害者ホームヘルプサービス事業の実施に向け、全国初の「ピア・ヘルパー等養成研修事業」を復帰協に本年四月に委託しました。

「ピア」といって今注目されています。大阪府は平成十四年度より始まる精神障害者ホームヘルプサービス事業の実施に向け、全国初の「ピア・ヘルパー等養成研修事業」を復帰協に本年四月に委託しました。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

(財) 復帰協が誕生して二十五年が過ぎ、精神保健福祉の状況も随分変化しました。

「精神衛生」から「精神保健」とさらには「精神保健福祉」と法律の名称も変わり、予防(防衛)からこころの健康づくり、さらに精神障害者福祉も施策化されるようになりました。来年4月からは、各市町村でも精神障害者への相談や事業が行われるようになります。

国主導が進められているので、国が次から次へと施策を打ち出し、それに地方が慌て何とかしようと必死になっているような状況です。

「福祉」に関する施策が創設されるのは、困難を抱えながら必死で生活している人たちのことが社会的関心を集め、社会問題化し、それに

「福祉」に関する施策が創設されるのは、困難を抱えながら必死で生活している人たちのことが社会的関心を集め、社会問題化し、それに

### 福祉は誰が動かすのか

私がこの領域で仕事をするようになったのは、十五年ほど前ですが、その頃は、「精神障害者の手帳制度ができる」「ホームヘルプサービスが利用できる」などは夢のような話として扱われていました。まさしく「激変」した感

がらも必死で生活している人たちのことが社会的関心を集め、社会問題化し、それに

「ピア」といって今注目されています。大阪府は平成十四年度より始まる精神障害者ホームヘルプサービス事業の実施に向け、全国初の「ピア・ヘルパー等養成研修事業」を復帰協に本年四月に委託しました。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

大阪府は平成十四年度より始まる精神障害者ホームヘルプサービス事業の実施に向け、全国初の「ピア・ヘルパー等養成研修事業」を復帰協に本年四月に委託しました。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

この事業は、他人が家の中に入ってくるホームヘルプサービスは当事者にとつて「どんな人が来るのだろうか？」「上手く話せるだろうか？」などの緊張感や不安感が強く、上手く利用できないという指摘を解消するために、当事者や家族からの「当事者同士なら緊張しないのでは」「当事者同士なら緊張しないか」との提案に大阪府が応えたものです。

大阪人間科学大学

辻井誠人

(復帰協・行實志都子)